

平成28年度 第6回 未来創造セミナー実績報告

平成28年12月16日

草津市総合政策部草津未来研究所
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

1. たぶんカフェ@UDCBK!の目的

未来の草津市は大学や大企業の工場が立地することから、外国にルーツを持つ学生や労働者、そして、その家族が暮らすまちになる。

未来の草津市のアーバンデザインを考える上で、外国にルーツを持つ人々の視点を取り込むことは非常に重要となる。

そこで、UDCBKに、外国にルーツを持ち、草津に暮らし、学び、働く人々が気軽に自由に訪れるよう、「たぶんカフェ@UDCBK!」（多文化とカフェを掛け合わせて命名）をシリーズで実施する。

3回シリーズとして、各回、同じ環境の日本人との交流を通じ、お互いを知り合い、それぞれの課題を知り合うことによって、草津のアーバンデザインを一緒に考える対話のきっかけづくりを行う。

なお、本プログラムは草津市国際交流協会（KIFA）と協働で実施する。

2. 未来創造セミナー

平成27年度の未来創造セミナーの試行結果、および草津市大学地域連携強化プラン懇話会における議論等を踏まえ、アーバンデザインセンター事業として実施する平成28年度の未来創造セミナーについては主に次の二つの目的で実施することとしました。

	機能	内容	回数
未来創造セミナー	交流	多様な人々の交流を目的に草津の歴史や草津に住む人々のライフストーリー等を語ってもらう場	4~6
	連携	産学公民連携により、草津の未来のイメージを具現化するアイデアを纏め、社会実験等に接続	4~6

3. 第5回 未来創造セミナー概要

(1) テーマ・目的等

- ① テーマ：「草津で学ぶ留学生と地域の人々」
- ② 目的：草津で学ぶ留学生の草津での学びや暮らしの経験を聞いて、草津の未来のまちのデザインを一緒に考えよう！
- ③ 開催日：平成28年12月16日（金曜）午後6時30分から午後8時まで
- ④ 開催場所：市民交流プラザ 中会議室（フェリエ南草津5階）
- ⑤ アドバイザー： 亀田 直彦 氏
（立命館大学 BKC 国際教育センター課長）

(2) 当日のスケジュール

たぶんカフェ(多文化×カフェ)@UDCBK

たぶんカフェ@UDCBK の すすめかた

18:30	1. アドバイザー紹介	19:40	5. 発表
18:40	2. アドバイザーによる話題提供	19:55	5. アンケート記入
19:00	3. 留学生紹介		
19:10	4. どんな地域にしたいか話し合い		

4. 第5回未来創造セミナー「たぶんカフェ」の内容について

(1) 亀田直彦氏（立命館大学 BKC 国際教育センター課長）による話題提供

（午後6時40分から午後7時）

テーマ：「大学で学び、暮らすこと」

APU（立命館大学アジア太平洋大学）と別府コミュニティの「まじりあい」の可能性



写真1. 亀田氏による話題提供のようす

立命館アジア太平洋大学（APU）概要説明

開学経緯

立命館大学の兄弟校を創設するにあたり、関西にある立命館大学とはコンセプトを変えて「留学生を主役にできる」・「アジア太平洋の未来をつくる人を育てる」・「新しい学問をつくる」大学として立命館アジア太平洋大学（Asia Pacific University）を2000年に大分県別府市に開学した。

学生の国と地域

- 生徒数は留学生約2600名、日本人学生約2900名でほぼ半数ずつの割合。
- 世界90の国と地域からの留学生が集まっている。

別府市・地域との関わり

- ・別府市の人口は約 12 万人
- ・県一市一大学の三者協力、地域住民の協力によりコミュニティが発展
→ひとづくり・まちづくり・えんづくり

地域コミュニティの具体例

◎地域住民をキャンパス内に招く

- ・キャンパス内では多国籍の留学生が学んでいるため、異文化体験ができる。
- ・地域の小学生が授業の一環で交流に訪れる。

◎地域に訪れる

- ・学生のサークル団体が地域に訪問し活動を披露する。
- ・学生が交流プログラムを企画、運営し地域の学校に訪問する。

◎ホームステイ

- ・期間（週末のみ～在学中 4 年間）は幅広く、地域住民の家庭でホームステイをする。
- ・留学生にとって別府市が「第 2 のふるさと」になる。

草津市での可能性

草津市との共通点

- ・別府市と草津市は人口規模が似ており、地域コミュニティを築くにあたって、ちょうど良い人口数である。
- ・別府市同様、滋賀県一草津市一立命館大学の三者協力を期待できる。
- ・立命館大学（BKC）にはすでに約 500 人の留学生が在籍しており、異文化交流を進めるには一定の存在感がある。

グローバル人材の育成

- ・企業目線でいう語学が堪能でタフな人間のようなグローバル人材ではなく、国籍や出身を越えてパーソナリティと捉え、交流を楽しめる人こそがグローバルな人材である。

(2) 「どんな地域にしたいか」をテーマに議論

5組のグループに分かれ、「どんな地域にしたいか」をテーマに各グループで議論し、意見をふせんやカラーマーカーを使って模造紙にまとめていただきました。



写真2. 各グループの議論のようす



写真3. 各グループの議論のようす

(3) 各グループのまとめを発表

各グループの意見

- ① 地域との交流を深めるためには
 - ・マンション住人間の交流の機会が欲しい
 - ・フリーマーケットで多国籍料理を楽しむ場をつくる
 - ・交流できる場をつくる



写真4. 各グループのまとめ

- ② 暮らしやすさ
 - 《過去に困ったこと》
 - ・地震があったとき
 - ・携帯電話などの契約
 - ・バスの乗り方
 - 《未来に求めること》
 - ・街中にいろいろな言語の標識をつくってほしい
 - ・病院には医療通訳者を増やしてほしい
 - ・いろいろな宗教の方が活動できる場をつくってほしい
 - 《改善すべきこと》
 - ・他国言語の勉強
 - ・外国人労働者の給料が日本人より少ないこと

- ③ 異文化交流に必要なこと
- ・話す場をつくることが大事
 - ・食事の場は話すことができる
 - ・多文化交流祭りを行うと良い
 - ・ホームステイで食文化から異文化交流を深める
 - ・温泉で話す機会をつくる

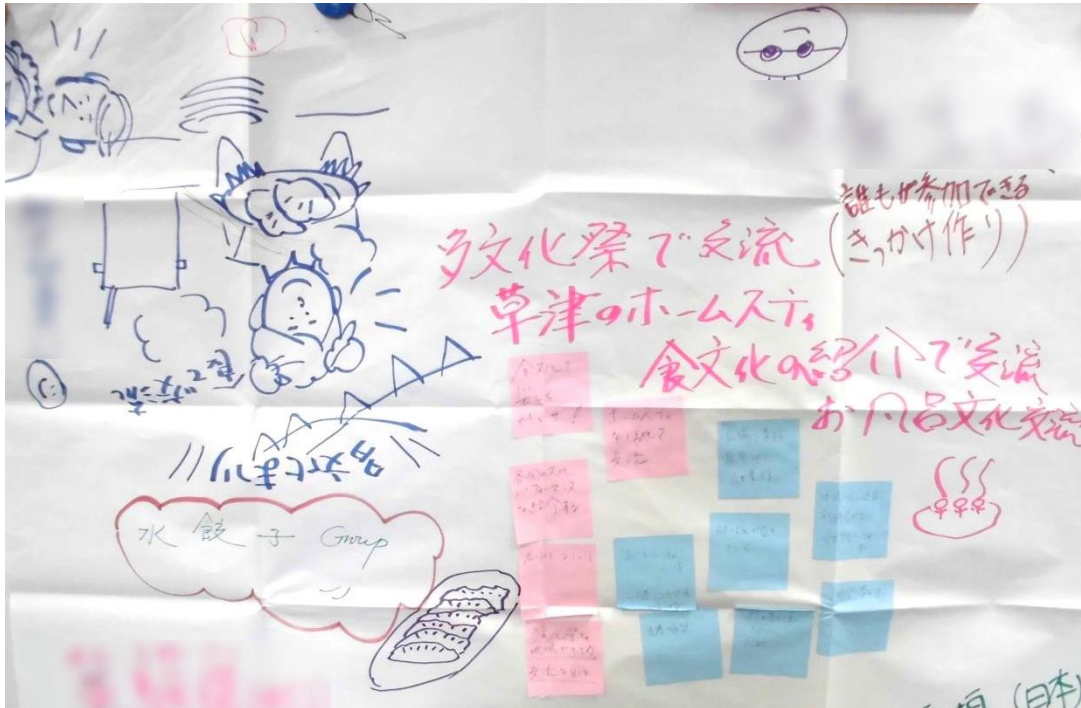


写真5. 各グループのまとめ

- ④ 日本で暮らして困ったこと・交流に必要なこと
- ・日本語が話せると困らない
 - ・一人で病院に行くと困る
 - ・市役所の対応が分からないことがある
 - ・日本人と一緒にイベントを行いたい
 - ・お正月などのイベントや、おせち料理などの食文化から交流の場をつくりたい
- ⑤ 草津の良いところ・困るところ・改善してほしいところ
- 《草津の良いところ》
- ・市民が温かく、家族のような雰囲気がある
 - ・野菜や果物が美味しい
- 《困るところ》
- ・夜が暗い（駅から離れると暗い）
 - ・バスの運行が少なく不便
 - ・駅から離れるとスーパーマーケットが少ない

《改善してほしいところ》

- ホームステイがしたい
- ホームステイを通じて新しいことを知ることができる
- 草津の名物や歴史を知りたい
- 日本語が分かると留学生もホストファミリーもハードルが下がる

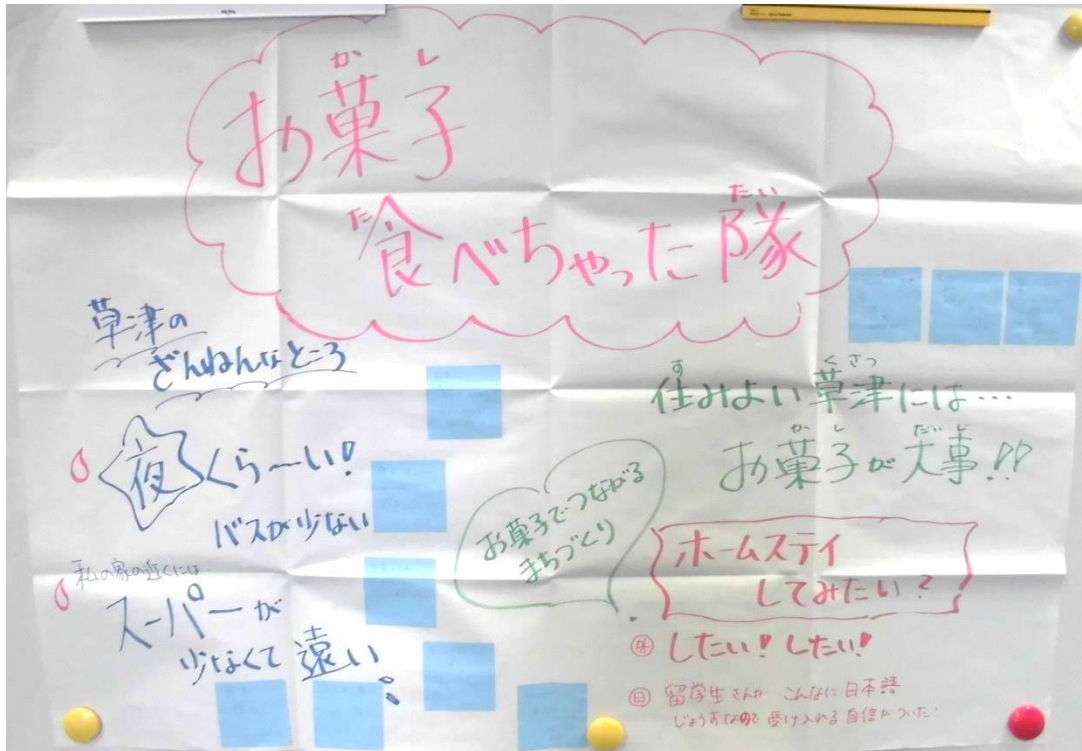


写真6. 各グループのまとめ

(4) アドバイザー亀田氏による講評

それぞれの視点で自由な議論ができていた。セミナー全体を通して温かい空気を感じた。草津市全体にも広がると具体的なプログラムや地域とのコミュニケーションにつながる。これからもこういった勉強会などの場が続いていけばと思う。

5. 第5回 未来創造セミナーとしてのまとめ

▶ アンケート集計結果

問 1	非常に有意義	有意義	まあまあ	物足りない	非常に物足りない	合計
①運営等全般	15	8	0	0	0	23
問 2	非常に有意義	有意義	まあまあ	物足りない	非常に物足りない	合計
②内容	18	3	2	0	0	23
問 2	大いに活かせる		いくらか活かせる		ほとんど活かさない	合計
③今後活かせるか	18		5		0	23
問 3	適切		長すぎる		短すぎる	合計
④時間	20		0		3	23
問 4	適切	曜日が不適切	時間帯が不適切	曜日・時間不適切		合計
⑤開催日	23	0	0	0		23

参加者数 29 名に対して、アンケート回収数は 23 件でした。回答率は 79% でした。セミナーの運営等全般、セミナーの内容についてはいずれも高評価を得ることができました。セミナーの時間に関しては「短い」等の意見があり、より深い議論が期待できる結果となりました。

今回は 8 名の留学生の参加があり、実際に日本に住んでみて良かったこと、困ったことの意味を聞くことができ、グループによる議論もより深く掘り下げた内容になりました。

また、今回は以前から要望のあったカフェ形式のワークショップを行いました。参加者が外国のお菓子やコーヒーを持ち寄り、参加者みなさんで楽しみながら、和やかにワークショップを進めることができました。

➤ セミナー参加者の主な意見

- 未来のまちづくりって具体的にどういうことなのか別府のよい例をきくことができ、また自分の町にあてはめて考えることができてよかったです。
- お料理やスポーツを通じて交流を深めたら良いなと思いますし、勉強以外に日本人と関わるチャンスがあればありがたいと思います。
- 実際に留学生の方とお話できたのは大きかった。生の声が聞けて勉強になった。外国の方がどうしたら住みやすくなるのか考えるきっかけになった。
- もっと身近で簡単な話の方が良いと思います。多文化交流はやり方だけではなく、地元にもつ色々な施設や状況を考えなければなりなくと思います。
- 留学生の生の声が聞ける機会があるというのは、とても大事な時間だと思いました。是非、ここでの話し合いが未来につながってほしいと願います。
- 亀田さんのお話、目からウロコでした！そして亀田さんが今どんなお気持ちで草津に来られているのかに感動しました。
- 今回参加させていただきまして本当にありがとうございました。素晴らしいお話を聞きました。これから、もっとこういうチャンスが増えたらいいなあと思います。
- 日本人もだが外国人の方は特にイベント（スポーツ、料理）に参加することが生活を豊かにすることにつながると感じました。

➤ UDCBK としての成果

今回は従来とは異なり、立命館アジア太平洋大学の具体的な取り組みを紹介したあと、議論したこともあり、具体的な話し合いができました。

➤ 今後の課題

一方で、先行事例に影響を受け、提案に新規性が見られませんでした。UDCBK の場合、主催者側に具体案がある訳ではなく、不十分であっても参加者の対話の中から、新たな活動を見出すことがミッションでもあり、ワークショップのデザインのあり方に課題が残りました。